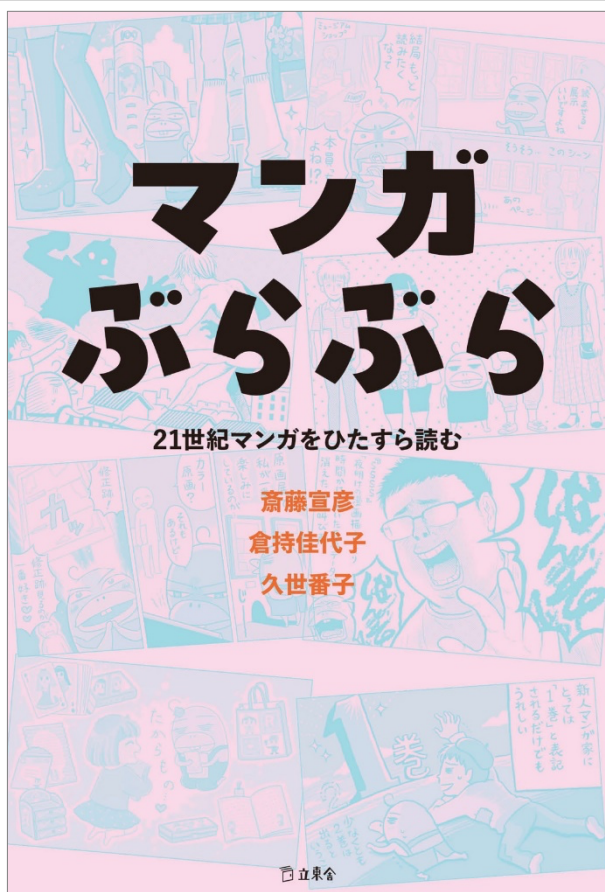


各 位

2025 年 7 月 11 日
株式会社リットーミュージック

「マンガ読みのプロ」と、人気マンガ家の豪華コラボレーションが1冊に。
読売新聞の人気連載から生まれた『マンガぶらぶら 21世紀マンガをひたすら読む』が発売



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）内で文芸・カルチャー関連を扱う出版レーベル立東舎は、『マンガぶらぶら 21世紀マンガをひたすら読む』を、2025 年 7 月 11 日に発売します。

これは、天体観測や気象観測のように、定まった点から作品やムーブメントを見上げ続けた「マンガ定点観測」の本です。猫マンガ、ルポマンガ、学習マンガ、長寿マンガからバンドデシネ、マンガ研究本まで、登場するのは 300 作以上。まさに「面白そうな作品が、あっちにも、こっちにも」という状態で、たくさんのマンガが、斎藤宣彦と倉持佳代子のテキストによって紹介されています。また、それぞれの文章には久世番子による魅力あふれるイラストが付き、文章とイラストの組み合わせも楽しめます。2010年代後半から2020年代前半に読売新聞に掲載された書評とイラストを1冊にまとめ、近年の出版界の激動期を記録しました。

【目次】

マンガは毎日、新しい

第一章 未来編
第二章 乱世編
第三章 復活編
第四章 黎明編

付録 2015～23 年、二人のベスト 3
おわりに

本文より

乱世編 なか、青年は透徹した知性で思考を続ける……。 画の勝田文は時折、真つ黒い背景の空に、雲を白く抜いて「青空」を出現させる。黒と白の効果を熟知した「勝田マジック」の渾えである。風太郎のいう「愚かな世の中」であっても、空はどこまでも青く、自然は自らのリズムを刻む。こういった「何気ない美しさ」を随所で描ける勝田の筆が、マンガ全体を気品あるものに保っている。 日記刊行から半世紀を経た今年には風太郎の没後20年で、来年は生誕100年。この夏、戦時下の青春を、マンガで、日記で、たどりなおしてみたい。 （斎藤 2017年8月16日） 75	戦時下の青春 悲慘さと余裕——『風太郎不戦日記』 昨年本紙の年間回顧で「ベスト3作」に私が挙げた「風太郎不戦日記」が、講談社「モニング」で7月に完結し、最終3巻が発売された。作家・山田風太郎の、東京医科大学だった1945年1昭和20年の一年間の日記（戦中派不戦日記）として7年初刊。現在講談社文庫を原作とし、勝田文がマンガ化している。 日記は「一月一日 運命の年明く、日本の存亡この一年にかかるといふ危機意識から始まる。物面上昇や食糧配給の少なさを苦しみ、空襲警報による試験休止に伴い無邪気に喜ぶ。東京大空襲では、医大が被害を受ける。一面の焼け野原を見て、全日本人が復讐の陰鬼となつてこそ、この戦争に生き残り得るのだ」と軍国主義下の青年の激憤を書きつけるが、一方で同じ3月に映画館で外国映画を鑑賞し、コメディアン・古川ロッパの舞台を見る描写が連なる。悲慘さと余裕が奇跡に混在した、当時の東京や、風太郎日記の空気がよく再現されている。 8月15日 風太郎は疎開先で玉音放送を聴く。日記「炎天、帝国ツイ二敵二屈ス」「なぜこうなつたのか？ 日本はこういう考え方をしない。浅薄なのである。なぜ無謀な戦争に挑み、負けたのか。敗戦国の日本と日本人はどうあるべきか。人々の混乱と醜態の 74
復活編 『腐女子』の生き方 共感呼ぶ——『腐女子』について 四半世紀経つとこうなる「底く懐古編」 ここ数年、「腐女子」を題材にしたマンガが増えている。腐女子とは、ボーイズラブ（BL）など、男性の同性愛を扱った小説やマンガを好む女性を意味するが、そうしたマンガの影響からか、言葉として浸透し、さらにはポジティブなイメージに変わつてきた。 ヒット作には、ふじた著「オタクに恋は難しい」（迅社）、ぢゅん著「私がモテてどうすんだ」（講談社）など、腐女子の不器用な恋愛を描くもの、つづ井著「腐女子のつづ井さん」（KADOKAWA）など、腐女子の友情・独特なコミュニケーションを描くものがある。リアルな恋愛よりBLで得られる萌えを優先する業が笑いをよぶ一方、好きなことに一途な姿が輝いて見える。 中でもイチオシは、御手洗直子著「腐女子」になつて四半世紀経つとこうなる「底く懐古編」だ。アラフォーの作者の体験をもとに、1990年代の腐女子事情を読み手・描き手の視点から振り返る。 例えば、今ではクリック一つで同人誌が購入できるが、当時は自家通販が中心だったため、定額小為替と手書きの手紙でやり取りしていた。不便さにも負けない当時の熱量が語られるとともに、アナログなやり取りゆえに流行した「レインボー便箋」など、懐かしいキーワードもたくさん出てくる。 加えて、コミックマーケットの大手サークルにまつわる都市伝説「売り上げをゴミ袋に入れてイベント会場で捨てた」「高校生ながら売り上げでスタッフ全員をハワイに連れて行った」などについて、当事者のマンガ家・高河ゆんに真偽を確かめる回も収録されており、驚きの体験談が語られている。同人誌文化の「記録」として興味深い一冊だ。 腐女子パワーは今も昔も変わらない。その歴史を猛進ぶりが現代らしい生き方として共感をよび、マンガの題材になりやすいのかもしれない。 （倉持 2019年3月25日） 121	120

■書誌情報

書名：マンガぶらぶら 21 世紀マンガをひたすら読む
著者：斎藤宣彦、倉持佳代子、久世番子
定価：2,420 円（本体 2,200 円＋税 10%）

発売日：2025 年 7 月 11 日

発行：立東舎／発売：リットーミュージック

商品情報ページ <https://rittorsha.jp/items/25317411.html>

PROFILE

プロフィール

斎藤宣彦

編集者、詩人、漫想家。マンガ誌の創刊、施設運営、文化庁メディア芸術祭審査委員など多方面で活躍。著書に『マンガの遺伝子』（講談社）、インタビュー集に『マンガ熱』（筑摩書房）、共・編著に『マンガの読み方』（宝島社）、『ニッポンのマンガ』（朝日新聞出版）など多数。

倉持佳代子

京都国際マンガミュージアム学芸員。2008 年より同館で様々な展示やイベントの企画に携わる。新聞・雑誌でコラムを寄稿するなど執筆業も。共著に『かわいい！少女マンガ・ファッションブック 昭和少女にモードを教えた 4 人の作家』（立東舎）など。

久世番子

漫画家。2000 年「月刊ウィングス」（新書館）でデビュー。代表作は『暴れん坊本屋さん』（新書館）、『よちよち文藝部』（文藝春秋）、『パレス・メイヂ』（白泉社）、『ひらばのひと』（講談社）。

【立東舎】 <https://rittorsha.jp/>

立東舎は文芸、マンガほか、さまざまな分野のポップカルチャーを紹介する出版活動を展開中。「乙女の本棚」などの好評シリーズのほか、手塚治虫、谷ゆき子らの幻のマンガの復刻などで感度の高い読者の話題を集めている出版ブランドです。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド＆レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー＆クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア＆コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp